



2021年が始まりました。12月4日に労協方が成立し、メディア対応や多様な団体との懇談が一月も継続しています。2021年、協同労働をトレンドにすべく、今年も1年全国の仲間とともに頑張ります。

1月25日に「労働者協同組合法」成立記念フォーラムを開催しました。コロナ禍で、且つ緊急事態宣言も出される中での開催となりましたが、来賓、講演者、自治体、参加者、本部、全国の仲間のみなさんのご協力のもと、開催できたことを嬉しく思います。

当日は、田村憲久厚生労働大臣、梶屋敬悟与党協同労働の法制化に関するワーキングチーム座長代理をはじめとする13人の国会議員の挨拶に加え、神津里季生労働者福祉中央協議会(中央労福協)会長、比嘉政浩日本協同組合連携機構(JCA)代表理事専務、藤井恵里ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン(WNJ)代表、アリエル・グアルコ国際協同組合同盟(ICA)会長からの法成立の経過や法に込められた想いや価値が語られました。講演では長年に渡り労働者協同組合をご理解いただいてきた池上惇京都大学名誉教授から、全員一致で成立した価値、二宮尊徳の実践から学ぶこと、労働者が公共経営を担う意味などのお話がありました。広井良典京都大学こころの未来研究センター教授からは「人口減少・ポストコロナ社会の展望と労働者協同組合～自立分散的な働き方と『生命』経済」と題し、今後の労働者協同組合の可能性をお話

いただきました。また全国10自治体の首長からは、法律成立のお祝いやどのように住民に周知し、活用してもらえるよう支援し、持続可能で活力ある地域社会づくりに向かう期待のメッセージが寄せられました。会場も感染対策を講じて63名が参加し、オンラインでは延べ400ヶ所以上からのアクセスがあり、一般参加者150名を含む、約600人が参加してくださいました。

各地での学習会も進み、加盟組織では、はんしんワーカーズコープ全組合員会議(1.9)や、とちぎ労働者雇用福祉事業団事務局員会議(1.29)、ナマケモノ倶楽部オンラインカフェ&バーゆっくり堂「ワーカーズ・コープというコモンズ」、信州協同労働推進ネットワークでは学習会(1.29)などで学びの場が設定され、旺盛な法の内容に関する質疑や、改めて自分たちの働き方(協同労働)の特徴や実感を確認し、どのように地域に向かって発信するかを議論しています。

また海士町副業協同組合太田章彦さん、銀座ミツバチプロジェクト田中淳夫さんと八幡平地熱活用プロジェクト船橋慶延さん、大日本報徳社鷲山恭彦社長等々、多様な団体と法成立を契機に情報交換を行い、連携を検討できればと懇談しています。多くの人たちに知ってもらい、共に労働者協同組合・協同労働を深め広げていきたいです。